

いっぱん質問

竹田 努 議員



問 釜谷生活改善センター 前倒して建て替えを

答 計画通り27年設計、28年建設で進める —— 町長

質問 釜谷生活改善センターの建設は、第6次木古内町振興計画で平成28年度に搭載していますが、前倒しの検討や建設地を地域の皆さんと早急に協議すべきだと考えます。

また、町政懇談会で議論のあった、各町内会館の管理委託料は、施設の整備等を含め早急に統一性を図るべきだと思いますが、町長の考えを聞きます。

大森町長 釜谷生活改善センターは、築40年が経過し、これまで屋根や外壁の張り替え、トイレの簡易水洗化など、小規模な営繕を行い維持管理をしてきました。

地域からの強い要望に加え老朽化が著しいことから、優先度の高い事業と位置付け、新センターの建設を第6次振興計画に登載し、平成27年度に設計、28年度に建替工事を行う



建設地を含め、地域の皆さんとの協議が必要となっている釜谷生活改善センター

計画としています。

今後、建設地を含め地域の皆様と協議を進める中で、計画通り実施できるようにしたいと考えています。

また、町が管理している町内会館等は13施設があります。このうち7か所は有償で、6か所は無償で管理をいただいています。

有償による管理業務

は、貸館業務のほか施設周辺の除草や除雪など、環境整備業務をお願いしています。無償による会館等は、基本的に環境整備を町が行っています。

有償施設の委託料は、使用頻度や業務内容で違いはありますが、当面は現行の委託料でお願いすることにしていきます。

給食調理員 正職員の配置を

質問 学校給食センターの正職員の調理員は、今年度で退職となります。今後の安全管理面、特にアレルギー対策と児童・生徒数の推移は教育長から、財政面は町長から考えを聞きます。

野村教育長 正職員退職後の調理業務は、非常勤等職員による直営で続けるという基本方針には変わりありません。食数だけで調理員を減ずることも困難であり、アレルギー対策に十分配慮し、食品衛生指導に努めていきます。

大森町長 直営による運営継続は、教育委員会の意向を十分に尊重したものです。次年度以降は、再任用や非常勤職員等の採用により、人件費を抑制し運営に努めていきます。